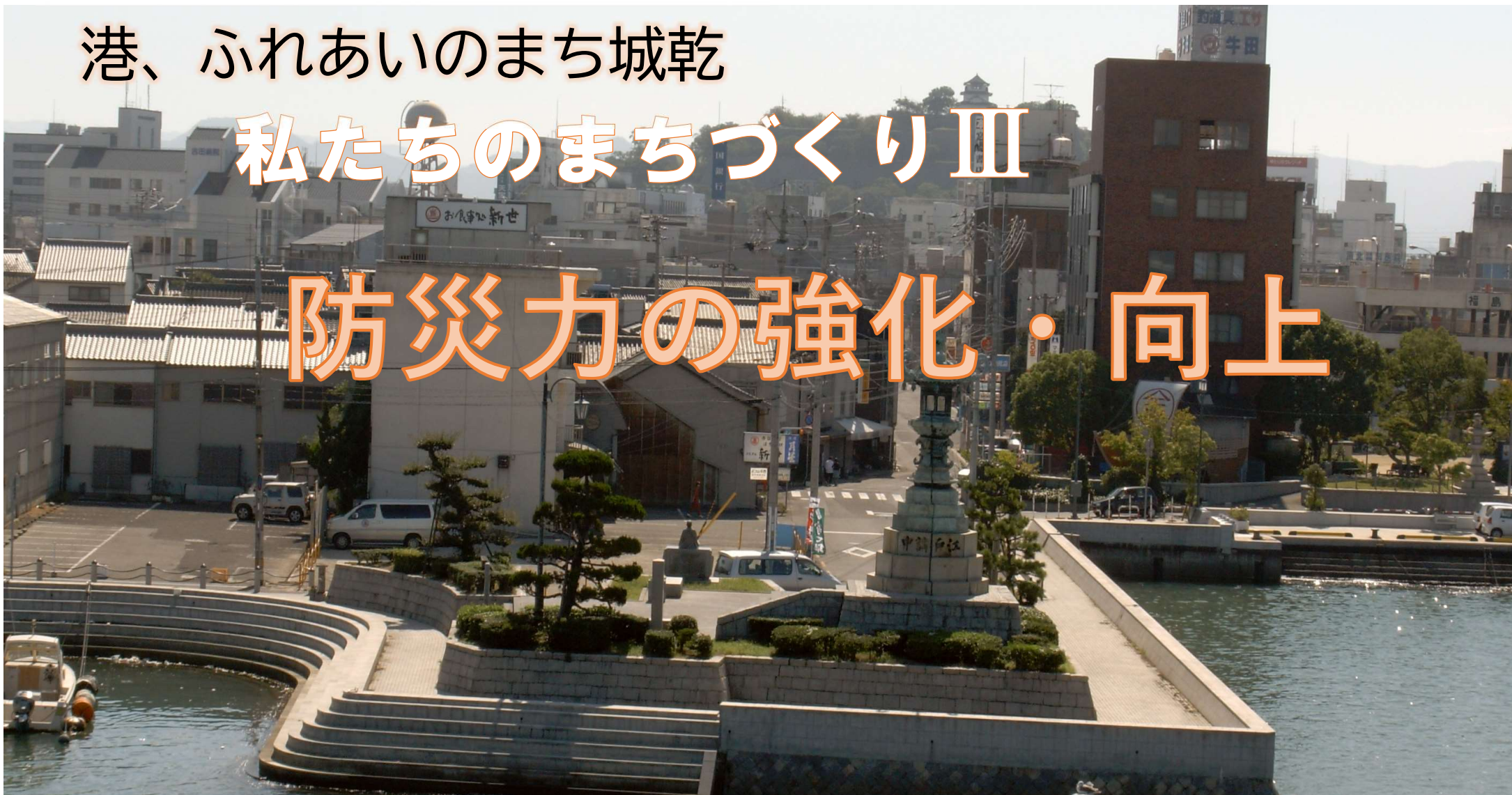


港、ふれあいのまち城乾

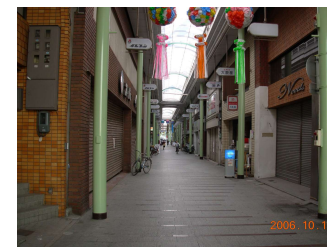
私たちのまちづくりⅢ

防災力の強化・向上



# 港、ふれあいのまち城乾

## 城乾地区の史跡・港



港、ふれあいのまち城乾

## 私たちのまちづくりⅢ

2023年～2027年

＊はじめに

「まちづくり計画Ⅱ」ではあいさつ運動を「まちづくりⅠ」に続いて行い、10年が経過しました。皆様のおかげで子供からお年寄りまであいさつが当たり前のようになっていると思います。アンケートで80%を超える人々が継続して城乾地区に住み続けたいとあります。続けて住み続けるためには「安心・安全なまち」が必要です。

昨今の気象状況や南海トラフにおける地震などのニュースを見ると、線状降水帯の発生や台風の災害などで「何十年住んでいるけどこんなことは初めて」というのを毎年のように聞きます。つまり絶対安全な地域はないということになります。私どもが住む丸亀市、城乾地区では平成16年に高潮被害が一部地区でありましたが大きな災害は経験しておりません。

これからの4年間「まちづくりⅢ」では防災力を高めることが重要と考え、目標にしたいと思います。私たち住民にできる安心安全なまちづくりでは、ソフト面の強化向上です。

城乾地区の地域性・特徴として、海岸や港に近く、標高1m未満から2mくらいの地区に大半の人が住んでいます。大雨による浸水や地震に弱い地区と考えられます。住民一体となって「防災力の強化・向上」を進め、安心安全なまちづくりに取り組んでいきましょう。

# 港、ふれあいのまち城乾 地区の強みと弱み

| 城乾地区の状況 |                                                                                                                                                                                                                                                                 | 強味                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内部要因    | <p>人口が密集しており都市ガス、下水道が普及している</p> <p>スーパーやコンビニ、ホームセンター、飲食店が多い</p> <p>港がある</p> <p>医療施設が多く近場にある</p> <p>コミュニティセンター、学校など避難所が地区のはずれで4 m以上の地にある</p> <p>域内に高い建物がある、学校、マンションなど</p> <p>若い世代が域外のマンションなどに住む人が多く人口の減少につながっている</p> <p>大災害（洪水、地震）を経験したことがない</p>                 | <p>JR丸亀駅に近い</p> <p>丸亀市街地の中心にある</p> <p>交通の便が良い</p> <p>近郊に市役所、消防署など高い建物がある、学校、マンションなど</p> <p>歴史的な史跡、寺院などがある</p>                                                                                                                |
|         | <p>人口が減少している</p> <p>住宅密集地が多く、木造住宅が多いため火災発生時には広がる可能性が高い</p> <p>消防車が入れない道路、地区がある</p> <p>高齢者が多い</p> <p>独居老人、老老世帯が多い</p> <p>細い路地が多いため火災など災害発生時に避難ができなくなる可能性がある</p> <p>自治会加入率が51%（766世帯）、回覧板の回らない世帯が地区内で半数ある</p> <p>子供の数が極端に減少している、小学校入学が1年に10名あまり</p> <p>空き家が増加</p> | <p>標高2 m以下の地が大半を占め、洪水になりやすい</p> <p>外国人が多く住む</p> <p>市街地であって避難可能な公園や広い空間が少ない</p> <p>西汐入川が洪水発生時に新浜地区を分断する恐れがある</p> <p>コミュニティセンター（避難所）が城西地区との境にある</p> <p>城乾こども園がR6年4月開園、80%強が域外の</p> <p>人</p> <p>ハザードマップでは地区の大半が浸水洪水地区になっている</p> |
|         |                                                                                                                                                                                                                                                                 | 弱み                                                                                                                                                                                                                           |
|         |                                                                                                                                                                                                                                                                 | 外部要因                                                                                                                                                                                                                         |

港、ふれあいのまち城乾  
5 年間の運動



防災意識を高める

大災害が発生した際に住民は何をすべきか。とっさの時にはだれもがどう動けばよいか、判断が出来かねます。その時役立つのは準備と訓練です。

災害に対する備えをしておく、必ず役立ちます。

城乾地区の多くの方が自分の住む町で災害は発生しないと思っている方が70%を超えています。台風が来ても大したことがない。豪雨もない。地震もない。

今まではそうでした。しかし、これからはいつ発生してもおかしくない。近年大災害にあった人々は、「何十年も住んでいるけどこんなのは初めて!」「想定外の災害」と、口をそろえたように話しています。

城乾地区は標高が低く、海に面し、家屋が密集しています。これからの5年先、10年先を考え、住民全員が災害に対する意識を高め、備えを行い、自分たち家族の安全を自分たちの手で確保しましょう。

城乾地区防災計画を地域に根付かせ、定着させよう

# 港、ふれあいのまち城乾

## 地域防災力を強化・・・何をする

### コミュニティ

- ・ ホームページで地域に役立つ情報を提供する
- ・ 二色の小旗を全世帯に配布、「安全確保」と、「助けて！」
- ・ 避難所での備蓄強化
- ・ 道路の標高をホームページに掲載
- ・ 避難する際の危険個所をホームページに掲載
- ・ 防災訓練を企画実施、年1回以上
- ・ 3階建て以上など、一時避難場所の確保と場所の情報提供
- ・ 防災倉庫の状況確認と内容の充実
- ・ 自治会を通して、各地区の住民情報、空き家情報の吸い上げ
- ・ 外国人との交流促進
- ・ 防災計画の継続的な見直し
- ・ QRコードで防災情報の見方を伝える
- ・ 地域の共同活動を推進
- ・ ふれあい祭りや文化祭を開催し、地域の融合を図る

### 自治会

- ・ 自治会員・未加入者の家屋を確認
- ・ 空き家の確認
- ・ 一時避難場所の確保と住民への連絡
- ・ 非難する経路と危険個所を確認
- ・ まちあるきの実施
- ・ 地域情報をコミュニティに連絡
- ・ 地域住民の連帯意識の向上、お互いのコミュニケーションを高める

### 個人

- ・ 家庭内で防災用品の用意
- ・ 食品などの備蓄
- ・ 2階建ての場合は2階に用意する、ガス器具、ガス、水保存食、衛生用品など
- ・ 家族の一時避難場所の共有
- ・ 家族の緊急連絡先
- ・ 火災報知機の据え付け
- ・ 消火器の用意
- ・ 情報を入手するためのラジオや携帯
- ・ 防災時に必要な用品（懐中電灯、ラジオ、電池、ヘルメットなど）

## 港、ふれあいのまち城乾

総務部会

- ・ ホームページで地域に役立つ情報を提供する
- ・ 二色の小旗を全世帯に配布、「安全確保」と、「助けて！」
- ・ 道路の標高などをホームページに掲載し、避難する際の危険個所をホームページに掲載
- ・ 防災訓練を企画実施、年1回以上・防災倉庫の状況確認と内容の充実
- ・ 外国人との交流促進
- ・ 防災計画の継続的な見直し
- ・ QRコードで防災情報の見方を伝える
- ・ 地域の共同活動を推進
- ・ ふれあい祭りや文化祭を開催し、地域の融合を図る

## 港、ふれあいのまち城乾

### 健全育成部会

#### 令和6年度健全育成部会 事業案並びに予算案

- (1) 毎月第一月曜日に自動通学路安全立哨
- (2) 5月から10月  
親子で体験 サツマイモ収穫祭
- (3) 11月 ハイキング
- (4) 12月 しめ縄づくり
- (5) 12月 親子ケーキ作り
- (6) 子どもの防災意識の啓発活動

**\*子どもの防災意識を高めるために防災ゲーム等の遊びながら学べるものを企画していく。**

## 港、ふれあいのまち城乾

### 環境部会

#### ・環境美化

クリーン作戦

年3回

花苗

ふれあい祭りに配布300個

夜警慰問

第2分団、第4分断（会長訪問）

#### 防災事業

避難場所

交渉し決定する

避難誘導

シールを作成し、スーパーなど多くの人が集まる場所や  
公衆トイレなどに貼る 30か所

## 港、ふれあいのまち城乾

### 福祉部会

#### 避難行動要支援者、要配慮者への日常的な取組み

- ・ 友愛訪問に合わせ、「防災まち歩き」に取り組み、危険個所の把握、マップの作成を行う。
- ・ 家屋、ブロック塀の倒壊や液状化等危険個所を想定し、避難場所や避難所へのルート、迂回ルートの確認等を要支援者等と共同で行う。
- ・ 要支援者等の事由（寝たきり、高齢、歩行困難、視覚、聴覚障害等）を考慮した避難手段や避難所（福祉避難所の要否）を想定し、要支援者等の防災意識の向上を図る。
- ・ 日常生活における声掛け等を推進し、要支援者等の情報を最新の状況に更新する。

#### 災害時における避難支援体制の確保

- ・ 要支援者等の安否確認手段の検討。
- ・ 要支援者等の避難支援を確保するため、関係機関への情報提供の在り方を検討。
- ・ 通信システムが遮断された場合の部会員間の連絡手段、安否確認手段の構築。

港、ふれあいのまち城乾

保健部会

**健康講習会**

**健康後援会**

**親子料理教室**

**健康ポイント活動**

**？（「すくすくルーム」協力毎月第2木曜日）愛育班が令和5年度で解散**

港、ふれあいのまち城乾

体育部会

## 体育部会での取り組み まちづくり(防災)

- 1.定期的な防災訓練、救護訓練等を行い、技術向上を目指す
- 2.スポーツイベントを開催し、異世代交流で情報交換をする
- 3.消火機材・防災器具・救護用品の使用方法等の多人数での熟知
- 4.基礎体力を向上させ避難する体力をつける情報(トレーニング方法等)提供をする
- 5.避難経路の確認、誘導方法の情報共有
- 6.高齢者だけでなく、低年齢層の避難の仕方の確立(自宅だけでなく登下校中や外出中)